

教師を目指す青年の教師イメージの質的検討

○木谷智子・野仲真理子・太田美里
(広島大学大学院教育学研究科)

問題

職業選択は、大学生が直面する大きな危機であり、職業を選択するためにはアイデンティティの確立を行うことが必要とされた(Erikson,1950)。アイデンティティが確立された状態とは、内的な同一性と心理社会的な同一性が一致した状態である。つまり、職業を選択する際には、自己の能力や興味を理解し、それに沿った社会的役割を選択することが必要となる。しかし、就職後に職業役割の予想と現実のギャップを感じ、離職に結びつくケースも少なくはない。特に教育現場では離職率や精神疾患の割合が高いとされている。職業選択の際に予測していた職業役割と現実の役割との間にズレが生じ、そのことが内的同一性とズレを引き起こすために、アイデンティティの混乱を引き起こし、離職や精神疾患に結びついているのではないかと予測される。しかし、教員を目指す大学生が、教師役割をどのように理解し、どの点でズレが生じているのかについては多く検討されていない。よって本研究では、社会から求められる教師役割を大学生がどのように理解しているかを明らかにし、実際の教師役割とのズレについて検討することを目的とする。

方法

対象者：教員志望で2016年5月～6月にかけて3週間の教育実習を受ける予定の大学4年生30名。
手続き：質問紙調査を行った。質問紙では、「教員としての資質能力について必要だと思うものを書いてください」という問いに対して10個の回答欄を設けた。

結果

教師役割のイメージについての記入を1つずつに分けカードに記述した。1人につき、10個の記入欄があるため、30名分で計298枚(無効回答2枚)のカードを作成した。これらのカードについてKJ法(川喜田,1967)を用いてカテゴリ化を行い、図解を試みた。結果、23個の小カテゴリ、5個の中カテゴリ、3個の大カテゴリが得られた(以下【】を大カテゴリ、[]の中カテゴリ、「」を小カテゴリとする)。結果をFigure1に示した。

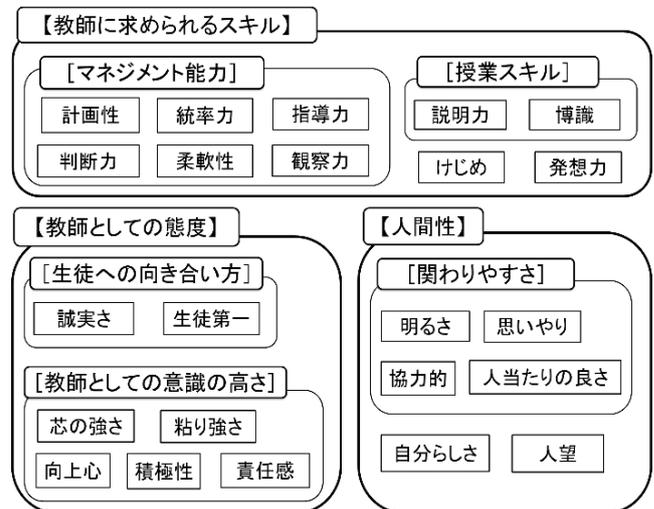


Figure1. 教師役割イメージの分析結果

考察

本調査では、大学生の持つ教師役割のイメージについての質的検討を行った。その結果、教師役割として、【教師に求められるスキル】【教師としての態度】【人間性】の3つを大きく認識していることが明らかになった。教員に求められる資質・能力(文部科学省)には、“専門職としての高度な知識・技能”“教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力”“総合的な人間力”の3点が挙げられており、これらは、KJ法の結果とおおよそ一致している。これらの結果から、教員を目指す大学生が持つ教師役割のイメージと、実際の教師の社会的役割には大きなズレは見られなかった。しかし、大学生の記述では、対生徒に関しての記述が多く、教師-生徒間での役割を強く重要視しているのに対し、文部科学省が示している教師の資質・能力には、学校全体を視野に入れた学級経営や、生徒だけではなく、地域や同僚との広い範囲での連携・協働の力が求められている点で違いが見られた。大学生は自分自身が生徒の時の教師との関係から教師の役割イメージを形成していると考えられる。そのため、自身が見ていない教師としての役割は十分に把握できておらず、実際の教師役割との差が生じやすいと考えられる。